

資本主義的發展段階を飛び越えて共産主義へうつる

問題は、つぎのように出された。すなわち、国民經濟發展の資本主義的段階が、いま解放されつつあり、その内部で戦後のいま、進歩の道をすすむ運動がみとめられている後進の諸民族にとって不可避であるという主張を、正しいとみとめることができるか、と。われわれは、この問題に否定の答をした。勝利した革命的プロレタリアートが、これらの民族のあいだで系統的な宣伝をおこない、ソヴェト政府が、自分のもっているすべての手段で、これらの民族の援助に乗りだすならば、資本主義的發展段階は後進民族にとって不可避だと考えるのは、まちがいである。あらゆる植民地と後進国で、われわれは、闘士の自主的なカードル、党組織を結成し、農民ソヴェトを組織するための宣伝をただちにおこない、農民ソヴェトを前資本主義的諸条件に適應させるようにつとめなければならないだけでなく、さらに、共産主義インタナショナルは、先進国のプロレタリアートの援助をえて、後進国はソヴェト制度へうつり、資本主義的發展段階を飛びこえて、一定的發展段階を経て共産主義へうつることができるという命題を確立し、理論的に基礎づけなければならない。

それにはどのような手段が必要であるかを、まえもってしめすことはできない。実践上の経験が、それをわれわれに暗示するであろう。しかし、ソヴェトの思想が、もっとも僻遠の地の諸民族のすべての勤労大衆にも身近なものであること、これらの組織すなわちソヴェトが、前資本主義的社会制度の諸条件に適應させられなければならないこと、共産党の活動が、この方向をめざして、全世界で即時はじまらなければならないことは、はっきりと確認された。

第 31 卷『共産主義インタナショナル第二回大会』P237

1920 年 7 月 19 日～ 8 月 7 日